

○議長（小林哲雄）

皆さんおはようございます。ただいまの出席議員は、１２名です。定足数に達しておりますので、これより平成２７年第１回開成町議会定例会３月会議（第２日目）の会議を開きます。

午前 ９時００分 開議

○議長（小林哲雄）

早速日程に入ります。

日程第１ 一般質問を行います。質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

５番、前田せつよ議員、どうぞ。

○５番（前田せつよ）

皆様、改めましておはようございます。議席番号５番、前田せつよでございます。通告に従いまして、次のように質問いたします。

「教育のまち、かいせい」における読書の推進は。

世情不安な現代にあって、人の心を育成する施策が大変重要であり急務であると考えます。心豊かな人格形成のために大きな役割を果たす一つとして、読書体験が挙げられます。よい本との出会いは、心を耕し、心をやさしくし、それは心を強くします。そして、正義感が生まれ、社会性が培われてまいります。

住民に読書を推進する取り組みとして「読書通帳」を配布する自治体があり、読書意欲を高める結果があらわれております。文部科学省の「ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した読書通帳による『読書大好き日本一』推進事業」が全国展開を始めております。平成２４年３月の報告によりますと、東京都江戸川区立上一色中学校では「読書通帳」を導入した効果は幾つも挙げられておりました。特に学校図書館での図書貸し出し数が導入前に比べ２倍強となっております。

１週間ほど前、江戸川区の教育委員会にお尋ねしましたら、さらにまた進展が見られるというようなお話もございました。

そこで、①朝読（朝の読書）による読書習慣の定着は。

②毎月１日（ついたち）、ファミリー読書デイの充実は。

③町民及び小中学生に対して「読書通帳」を配布するお考えは。

以上、壇上での第１回の質問といたします。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

前田議員のご質問にお答えします。世情不安な現代を象徴するような事件が起きてしましまして、新聞、テレビを通じまして、毎日のようにその現状等について報道がされています。他人事ではありません。本町においても、若干不登校の子どもはいますし、指導に大変労力を要する子どももいます。そのような現状の中で、園長、校長を呼びまして、開成町の子どもたちの健全な育成を図るように、また、問題行動があれば、直ちに教育委員会に報告をして、指導を仰ぐように、そういう指導をしております。幸いに

しまして、開成町におきましては、地域の皆さん方の温かいご支援がありまして、今のところ、大きな問題もなく、学校生活が送られているということに対しまして、重ねてお礼を申し上げます。

読書通帳とは、読んだ本の記録を残し、心に知的な貯金をしていくもので、子どもの本離れが心配されている中、読書通帳があれば、借りた本を最後まで読む子どもが増えると考えて始まったようです。

全国初の取り組みとして、山口県の下関市立中央図書館で2010年8月に、児童を対象に、無料で「読書通帳」を発行し、貸出履歴を記録する通帳としたのが始まりのようで、読書通帳は、金融機関の預金通帳と同じ形状のもので、書籍を借りた後、館内に設置されている専用の機械に通帳を差し入れると、貸出日や書籍名が印字され、通帳1冊で、書籍約200冊分を記帳できるそうであります。

また、本にICタグを添付することによって、カウンターでの貸出の受付時間を短縮できたり、自動貸出機を使って、利用者が自分のペースやセルフサービスで簡単に借りることができ、プライバシーの保護も図られるとされています。

このほかに、ICTを使用しないで、ホームページなどから、自分でダウンロードして、用紙にプリントアウトし、読書通帳をつくり、読んだ本の署名や感想などを書き込んだりする取り組みもしている自治体もあるようです。

文部科学省が行った、ICTを活用した読書通帳による読書大好き日本一推進事業の実報告書によれば、モデル校となった東京都江戸川区立上一色中学校では、校内研究として、生徒、教職員、保護者、地域住民による図書室の改装の実施、蔵書のデータベース化や図書システムの導入を行うなど、読書に対する積極的な取り組みがなされて、評価を実証する措置があると考えられる調査結果が出ております。

この事業の実施に当たっては、一つ目として、読書通帳の配付と読書通帳プリンターの設置であります。

二つ目として、公共図書館の司書等が学校図書館を訪問して、生徒の読書レベルや好みに応じた読書に関するアドバイスを実施しています。

三つ目として、図書司書、教諭、生徒、両親などのそれぞれの立場から、中学生に読んでほしいと思う図書を紹介してもらい、推薦図書リストを作成して、生徒へ配布などしているそうです。

これら三つの取り組みの成果として、生徒の本を読む量が増えた、読んでみたい本ができた、学校図書館の雰囲気がよくなったなど、アンケート結果では、成果が上がっているようであります。

次に個別の質問について、お答えします。

まず、1点目の朝の読書による読書週間の定着についてですが、幼稚園では、帰りの時間など、1日の中で時間を設けて、読み聞かせを行っています。小学校では、朝の読書タイムを週1回15分間設けているほか、一、二年生については、先生が読み聞かせを行うこともあります。

また、読み聞かせボランティアの方にも、ご協力をいただいております。中学校は、

毎朝読書タイムを10分間、生徒、教職員も一斉に行っており、落ちついた雰囲気の中で1日をスタートすることができ、学校全体の教育活動にも役立っています。また、読書をする意欲も定着してきています。

次に、2点目のファミリー読書日の充実についてです。開成町では、毎月1日（ついたち）をファミリー読書日と定めて、読書活動の推進を図っています。しかし、現在は、ファミリー読書日の広報計画にとどまっているのが現状です。今後予定しています、「第二次開成町子ども読書活動推進計画」の策定時に、日の設定を含めて、より方策を取り入れていきたいと考えています。

例えば、日にちではなくて、曜日に指定する方法等も考えております。

3点目の町民及び小中学生に対して、読書通帳を配付する考えは、についてですが、現在の小学校での取り組みは、手書きの図書カードを児童一人ごとに作成し、図書室でクラスごとに分けたものを図書司書が管理しています。年度終了時に、年間どれだけ借りたかわかるように、本人に図書カードを渡しています。

また、中学校では、個人ごとデータで管理していますが、個人や年間の貸出状況のフィードバックは行っていません。

次に、町の図書室では、全体の貸出状況はデータにより管理していますが、個人へのフィードバックは行っていません。

先ほどお答えしましたが、「読書通帳」には、ICTを活用して銀行のATMのように自動で印字できるシステムのもの、台紙を配付して個人で記入するタイプの2タイプのものがありますが、ITCを活用したものは導入費用がかさむため、現在のところ、導入は考えていません。

また、台紙に記入するタイプも、特に小学校は、児童が自分で記入することは難しく、内容も現在の図書カードと同等であると考えするため、小中学校、それぞれ現在の方式で対応していきたいと考えています。

また、特別活動領域の中で、5、6年生や、中学生のよりよい生活を送るための奉仕作業として、図書委員会の活動がありますが、図書カードの活用も大切な委員会活動であり、児童の図書利用状況を知ったり、よい本を勧めたりすることにもつながっています。

図書室ですが、近隣の規模の大きい図書館では、「読書通帳」を導入しているケースもありますが、開成町の図書室は規模も小さいため、今のところ導入は考えておりません。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○5番（前田せつよ）

教育長より、ただいま1点の答弁を頂戴いたしましたので、順次質問をさせていただきます。

1項目め、朝読による読書週間による定着は、についても、ご答弁いただいたわけですが、開成小学校では、朝のボランティアさんが現在7名いらっしゃって、発

足して早4年が経過しております。先日も校長先生、教頭先生をはじめ、朝のお忙しい時間いただきまして、見学をさせていただいたわけですが、それも含めまして、ボランティアさんのお話によりますと、例えば、朝、読書で自分が掲げた本を見た小学生が、たまたまそれが課題図書だったということで、大変に好評を得て、また、読み聞かせを行ったという、大変に効果の事例を重ねての4年間であると感じたところでございます。これをせっかくでございますので、開成南小へも広げるというお考えはいかがでございますでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。現在ではそういう形なんですけれども、南小学校で校長がそういう計画をするということであれば、より活用が広まっていいのかなと思います。拡大を図っていききたいというふうには思っています。

○5番（前田せつよ）

ぜひともよろしく願いいたします。

そしてまた、私の今回の一般質問の最初に申し述べたように、「教育のまち かいせい」というこのフレーズでございますが、まさしく県内でも先頭を切っているいろいろな取り組みをしていただきたいという思いでいっぱいでございます。

その中で朝の読書、朝読の調査研究をしてみるお考えはどうかと、また、提案し、そのお考えについて聞いてみたいなと思います。

と申しますのが、開成南小学校に行きましたところ、各クラスごとの先生方の朝読の対応が本当に個々さまざまでありまして、例えば、教室の椅子、子どもたちに、円卓のような形で囲ませてやっておられる先生もいれば、また、片隅に数人の子どもたちがいて、その周りを囲む風景があったりとか、また、あるクラスでは、何人かまとめて、廊下にある図書を探しに行きながら、朝読の時間であるんですけれども、同じ興味を持つ本に子どもたちが楽しそうに集っていたという様子がございました。そこで校内での朝読による研修、研究調査、または毎日朝読をやっています文命中学校とタイアップした形で、町内での研究調査等々されることはいかがかと思います。お考えをお願いします。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。町では職員が、開成町教育研究会という組織をしておりまして、その中でさまざまな分担ごとに情報を交換しながら、それぞれの園、学校の課題を解消するべくやっておりますので、国語研究部の中で、そういうことを研究していくということも一つの参考になるかなというふうに思っています。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○5番（前田せつよ）

朝の読書ということで、小学校では、おおむね１５分、中学校では１０分ということでございますが、本当に使い方はいろいろということなので、朝読ということに特化した形で、また、研究等々をしていただければいいかなというふうに思いますので、その点も１点、後でご答弁願いたいというふうに思います。

あともう一つ、先ほど開成小のボランティアさんのお話をしたんですが、その中で大変もったいないなという思いをしたことがございます。朝参りしたら、司書の先生がいられ、また、図書館司書の方がいられ、ボランティアさんがおられ、そこに子どもたちが入ってきてということで、さまざまに図書館の中に入ってくる方々、町民の方がおられたわけですが、やはり、その連携をとることが大変に重要なと感じました。

特にそこで感じたのが、学校司書の方が、現在２名という体制で雇用されているということで、やはり図書のことを考えたときに、神奈川県「読書のススメ」という中で、県の教育委員会が発表している中で、学校において、いつでも開かれた図書館、必ず誰かがいる図書館、気軽に集える図書館と明記されています。それを考えたときに、司書教諭のご負担を考えると、やはり各３校、それぞれに定着した形で司書の方を置かれるべきだと考えるところですが、いかがでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

おっしゃるとおり、図書館司書を置くということについては、そのとおりなんですけれども、学校には図書教諭というのがいまして、図書館を活用した、どのような教育をするかという観点で、学校の一つの分掌事務の一つとして図書教諭がいますので、今おっしゃられたように、図書館教育研究会というのが各学校にありますので、その中で連携を図りながら、月ごと、あるいは年間のスケジュール等を決めながらやっていけるということで、今の二人が一人、いわゆる専属でやったほうがいいというご意見はもっともだなというふうに思いますけれども、さまざまな制約の中で、今、ローテーションという形をとらせていただいています。今後の課題として継続であればいいかなということも一つの参考になると思います。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○５番（前田せつよ）

すみません。先ほど、１点、朝読に特化した形での研究に関して、答弁をもう一度いただきたいことと。

ただいまの司書教諭の先生のごことでご答弁いただいたわけですが、開成南、開成小の先生方を見ますと、中には学年主任であり、なおかつクラス担任である先生が学校の司書教諭という立場になっていられて、かなり多忙であるということ、本当に間近に目にしておりますので、ぜひ、各学校一人ずつ、常時図書司書がいるというような形で推進を願いたいと思います。

実は、ちょっと古いデータなんですけど、２００１年のＯＥＣＤ、経済協力開発機構の

調べによりますと、32カ国が当時加入しておりまして、その15歳の子どもたち、26万5,000人を対象にして、さまざま図書に関して、初めてデータを世界的に調べたところの中で、全世界共通の結果として、常時図書館に司書がいるとしないでは、総貸出数が約10倍違うという共通のデータがあらわれたということで、示しがありました。そこで、司書を3名にというような前向きな検討をしていただきたいと思うところです。

また、現在の図書館司書の方々の勤務体系を見ますと、朝8時半から午後3時半と思います。そうなりますと、子どもたちがまだ授業中だったりしている中で、後ろ髪ひかれる思いで、図書館司書の方は帰っていくんですよというお話もございましたので、その点、3名にということに、前向きに、積極的に取り組むお考えはいかがでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

努力目標にしたいなというふうには思っています。

先ほどの特化した中での朝読の研究をということに対しましては、基本は、やはり学校は授業で読み書き、国語の力をつけておかないことには、なかなか本に親しむという子どもはなかなか難しいというふうに思います。

ですから、昨年から2年間かけまして、開成町は幼小中とも、学びつくり研究会というのを県の委託を受けまして、先生方が、どのような授業の充実をすることによって、子どもたちに聞く力、読む力をつけるかということを進めていますので、なかなか低学年は、特に自分で本を読むという習慣は難しい。その意味では、先ほどからお話がありますように、読み聞かせをしながら、本の楽しさである、あるいはこんな本を読みたいという意欲化をするということについては、とってもいいことかなと思っています。

また、司書教諭、いわゆる学校司書については、3時半という時間設定をしているわけですが、子どもたちにつきましては、5時を終わって、今は直ちに下校するという状況ですので、今の状況では、そのぐらいの時間で、特に長休み、昼休み等の図書館の活用ということを念頭に置いていますので、そのぐらいの時間で適切かなと考えております。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○5番（前田せつよ）

それでは、2項目めの質問に入らせていただきます。

「ファミリー読書デー」の充実は、ということについてでございます。実際、私、何十人かの町民の方々にお話を聞きましたら、お知らせ版で、「ファミリー読書デー」というフレーズを聞いたというようなお話があったり、また、実際、お名前は申し上げられないのですが、開成小、開成南小、文命中学校、それぞれの担任を持っている先生にお伺いをしましたら、三人が三人ともご存じなかったという、ちょっと大変残念な結果であったわけで。

また、平成２２年の開成小の学校だよりの中に、「ファミリー読書デー」のことが大変素晴らしい形で載っておりました。記事を見ましたら、やはりそれは開成町の「ファミリー読書デー」ではなくて、県の「ファミリー読書デー」を特集した記事だったと。やはり、まず、「ファミリー読書デー」の啓発も交通整理をする必要があるなど感じたところでございますが、いかがでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

このことについては、全く本当に啓発が不十分であると思っています。

実はこれは平成１６年に、開成町読書推進計画をつくりまして、その当時は、かなり熱を上げてやっていたわけですがけれども、なかなか１０年という歳月の中で、少し温度差があって、うまくいっていない。先ほど議員おっしゃるとおり、県で読書のススめを出してきたということもありますので、うちとしまして、今、担当は、来年はできるかと思いますがけれども、第二次の読書推進計画を今作成中であります。

先日も、今年度の反省と今までの反省を含めて、各担当が集まりまして、反省点を出させました。その中でやはり「ファミリー読書デー」については、まだ全然町民の間で浸透していないという反省がありましたので、先ほども答弁しましたように、やはり曜日の設定等をしたほうがいいのか、１日（ついたち）というのが何曜日になっているかわからない。もしかすると、やはり１日というのが不適切かなということも意見の中で出ていました。第一土曜日なら、第一土曜日ということで、家族がみんなそろうときが「ファミリー読書デー」としてふさわしいのかなという意見もありましたので、今度の第二次読書推進計画の中では、その辺を吟味しながら、実践できる計画をしていきたいと考えています。現状では、本当に議員おっしゃるとおり、「ファミリー読書デー」については、ただ、１日がそうですよという啓発のみになっているところについては反省をしております。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○５番（前田せつよ）

ご答弁ありがとうございました。

「ファミリー読書デー」の第１回目の答弁の中に、今も教育長が答弁なさった、開成町子ども読書活動推進計画というのが、我が町は平成１６年３月に策定されたと。本当に県が確か平成１６年１月に策定しておりますので、いち早く３３市町村の中でいち早く策定を手がけたということで、すばらしいなという思いで見えておりましたら、その後、陸続と他市町村も策定に入られて、２回、３回と策定をしている他市町村もございますので、また、開成町の策定といいますか、改定の開成町子ども読書活動推進計画を楽しみに待っていたいなと思うところでございます。

そこで今、るる教育長から「ファミリー読書デー」の、こんな形でというような具体的な方策もご紹介いただいたわけなんですけど、そこで私からも１点ご提案したいと思

うことがございますので、紹介をさせていただきます。

まさしくファミリーというところでございますが、それを本年、町制60周年ということでございますので、記念行事として、本当に家族がそろって読書について云々という形の「ファミリー読書デー」の発表会等々を開催してみたいかなと思うのですが、お考えをお聞かせください。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

今、議員おっしゃるとおり、いいことかなとは思っていますけれども、事業計画が全部できてしまいましたし、なかなかはめ込むのは大変かなと思いますけれども、ぜひ、校長・園長会等で意見を集約しながら、町制60周年の冠がありますので、夏休みを中心に、チャレンジサマースクール等で10講座ほど、今、子どもや町民を対象にした行事を、今、計画していますので、その中にうまく盛り込めれば、今の議員おっしゃるような、全町という形になるかどうかわかりませんが、「ファミリー読書デー」の記念日みたいな形でできればという、まだ、チャレンジデーの中に盛り込む余地はあるかなとは考えています。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○5番（前田せつよ）

そんな形でぜひ盛り込んでいただいて、「ファミリー読書デー」のフェアになるのか、フェスティバルになるのか、発表会になるのかあれですけど、その元年としてスタートとなるような企画・立案がされるのを心待ちにしたいなと思うところでございます。

続きまして、3点目の町民及び小中学校に対して、「読書通帳」を配付する考えはということで、質問をさせていただきます。

先ほど、通帳の件で、具体的に一般の銀行、金融機関の通帳と同じような形のものがあれば、それを印字する機械等々はかなり高額であるということは、確かにそれは私も聞くとところでございます。

先ほど壇上でご紹介しました、江戸川区の上一色中学校の教育委員会にお尋ねしたときに、やはりかなり高額ではあるので、今はリースで対応しているというお話もあったところでございます。

そこで、しかし、本町におきまして、図書カードを見たときに、私たちがといいますか、町の職員の方々が、常々使っていらっしゃるタイムカードと同じぐらいのサイズの図書カードでございまして、ただし、低学年に関しては、かなり大きなサイズの図書カードで書きやすいという状況があるようでございます。

そこで、町内の企業にアプローチをかけて、町内の企業の関係からいろいろな協賛という形で、「読書通帳」をつくってみようかなというお考えはいかがでしょう。

○議長（小林哲雄）

教育長。



○教育長（鳥海 均）

ちょっと考えてみようかなとは思いますが、なかなか難しいかなと正直思います。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○５番（前田せつよ）

実際にちょっとお持ちしたので、皆様に見ていただこうかなと思います。話、繰り返になりますけれども、今、我が町で使っている読書カードは、本の名前を書くのが、縦１センチ、横４センチのこのカードでございまして、低学年、これは開成南小学校の、こういう形で、１年生の場合は、ここに大きく文字を書くという形でやっております。

そして、近隣のところで、平成２６年度の途中からですが、「読書通帳」に着手している近隣の「読書通帳」をご紹介いたしたいと思います。やはり低学年の場合は、こういう形で大きく、これは１、２、３年生だそうですが、書く形で、やはり縦は１センチなんですけれど、横は９．５センチという形で、同じように、低学年の場合は、大きな書き込みができるような状況になっておりますが、３年生以上は、こういう形で「読書通帳」をつくられたと。

平成２６年度は、この単価が１冊９０円だったと。そして、強制ではなくて、子どもたちによかったら使ってということで、その自治体内にある図書館施設、また学校の図書室にある程度の限定の枚数を置いてやったところ、大変好評であったと。本当に増刷をかけなきゃいけないぐらいだったということで、平成２７年度の予算では、この１冊単価が４０円、５０円できるという形で、子どもたちもこれを手にして、大人になった気分といいますか、そういう形であったと。

また、企業とタイアップした形の通帳ですと、まさしく私、大人が持っている通帳と何ら遜色のないような形で、こういう形で通帳がつけられている地域もございます。

私の３項目めの質問の中は、町民及びということで書いてございますので、小中学生だけに対してだけではなく、私たち大人に対しても、この読書の手帳を、例えば、乳幼児健診のときにこれを渡して、まだまだ読み聞かせが始まったばかりのお子さんに読み聞かせをしたときに、これを書き込んで、将来、例えばお嫁さんに行くときとか、母子手帳と同じような思いで、これを宝物として差し上げるというような取り組みはいかがかなと思うところでございます。町民というようなくりでございますので、教育長、また、町長にもご答弁いただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

今の説明ですと、本当に小さいうちに、子どもにどんな本を読み聞かせたのかということについては記録に残るかなとは思いますが、大体、子どものころ読んだ本というのは、お母さんが大事に家でとっておいて、小学生になったりしたときに、これ、赤ちゃんのときに読んだんだよという形で、我が家の例ですと、何十冊かあって、子ども

のときにこういうのを読んだんだよと実物を残していますので、通帳で説明をするということについてはどうかと、いい意見かなということに、とどめておきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

前田議員は、いろいろな先進事例や、いろいろな調査研究をして質問をしていただき、本当にありがとうございます。すごく参考になっています。

子どもたちの教育については、特に来年度以降、力を入れていきたいと思っています。その一つとして、図書、また、本を読んでもらう機会を増やすということはすごく大事なことで、その一つとして、この通帳は大事なのかなと。子どもたちがこの通帳を持つことによって、本を読もうという意欲につなげるために必要であって、単なる紙一枚の図書カードでは、子どもたちもそういう意欲は持てないのかなと。その見た目というのはすごく大事なのかなと思います。この通帳、本人一人一人が持てるようにするのに、そんなに手間がかかるとは私は思えないんですけれどね。要は通帳をつくって、それは印刷でまとめてつくることはできますけれども、そこに一人一人、例えば顔写真を入れたり、名前を入れたり、これはパソコンで簡単に今、シールをつくって張ることもできるのでありますので、やる気になれば、簡単な話なのかなと。また、企業の協賛も持ってくれば、その費用も捻出できるのかなと思いますので、できるだけ前向きに、子どもたちが図書に対して関心を持って読んでいけるような方向で進めていきたいと考えております。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○5番（前田せつよ）

子どもの読書活動の推進に関する法律というのがございます。その第4条に、地方公共団体の責務ということで、地方公共団体は、基本理念にのっとり云々、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有するとありまして。

続いて、その先ほど来、お話に出ます町内の事業者宛ての事業者の努力ということの文言が第5条として、「事業者はその事業活動を行うに当たっては基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どものすこやかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする」とございまして、今、町長から答弁をいただいたように、開成南小にも、某株式会社の想定コーナーがあったりもしますので、「読書通帳」おきまして、そのような形で、企業からまた応援をいただければいいなと思うところがございます。

私どもは、この議場内にいらっしゃる方皆さん、それぞれに忘れられない本との出会いがあったと思います。それは色あせないもので、年を重ねるごとに進化し、熟成されていくような存在だと私は思います。その素敵な本との出会い場の提供づくりは、ここにいる私たちの大きな責任であると考えますが、いかがでしょうか。

また、今、「読書通帳」とともに、開成町の乳幼児の健診の折にも、ブックスタート事業を開始してはどうかと思います。乳幼児のお母様は、まず、自分の子どもにどんな本を読ませたらいいのかなと悩むところでございまして、十分な提供、ご案内も、町当局ではされている場面もございますが、1冊、または2冊、初めての本をプレゼントするというブックスタート事業の展開についてのご所見を伺います。

○議長（小林哲雄）

保険健康課長。

○保険健康課長（田辺弘子）

では、お答えします。27年度につきましては、民間から絵本の無償提供というものが県から紹介がございまして、27年度、初めての赤ちゃんに対するプレゼントというような形で絵本を配付するということで計画をしております。それは「こんにちは赤ちゃん訪問」ということで、それを通じて、1冊本を配付するということで実施をしたいと考えております。

○議長（小林哲雄）

前田議員。

○5番（前田せつよ）

今、お話を伺って、楽しみだなと思うところがございます。今後もそれが切れ目なく、継続的な形で、読書環境整備の中で定例化されることを望み、本当に「教育のまち かいせい」にふさわしい形で読書環境づくりにまい進されることを願いまして、私の質問を以上といたします。